

スタジオから

- 師走の声を聞くと何かと気忙しくなり、落付かない気分になります。
しかしスタジオでの制作はますます熱気がこもり、12月27日まで毎日稼動しています。
- 忘年会のシーズンでありながら、なかなか予定がたちません。中継に出ている人、ロケで出張している人、取材でとび廻っている人など、予定表をみるとディレクター全員がセンターの部屋にそろう日はとてもありません。
- 来年度制作予定の番組の打合せも始まり、12月17日には「自然の理解」専攻の部会なども開かれ、主任講師、担当講師、ディレクターが一堂に会して侃々諤々、どんな番組を作ろうかと議論をたたかわせました。4月以降、テレビスタジオ2つとラジオスタジオ2つを使って順調に制作をすすめたいものです。
- 検討をかさねてきた高専教材バイオテクノロジーの番組もいよいよ12月14日のロケを皮切りに制作に入りました。
12月14日のロケは国立にあるヤクルト中央研究所の協力を得て、組換えDNAなどを中心とした一連の実験です。
スタジオの収録作業は1月末からはじまり、年度内に5本の番組を完成させる予定です。
- 12月の取材から話題を二つ。

「宇宙の構造と進化」を担当する酒井ディレクターは東大の岡山天体物理観測所へ中継に出かけました。この観測所は倉敷の西、遥照山の頂上にあり、中継当日は身を切られるような寒さ。屋外でいざ本番となると講師の先生、あまりの寒さに涙は出るし、舌は廻らない始末で収録不能、止むを得ず室内に場所を移してやっと収録完了。冬の中継は苦勞の多いものです。

安岡ディレクターが「行動科学」で京大霊長類研究所の日本一秀才チ

..... スタジオから

スタジオから

ンパンジー君の言語行動の実験取材した時のことです。

このチンパンジーは秀才にありがちな神経質で人見知りをするたちで、初対面の人をみると歯をむいてほえたてるそうです。

その鳴き声が何と不思議なことに「ワン，ワン」。なぜ猿が「ワン，ワン」となくのか学者先生にも一向にわからないとのこと。

☆ スタジオ見学者（12月）

○ 国際協力事業団沖縄国際センター

..... スタジオから